

第2回「弥富市地域公共交通活性化協議会」 議事録

日時：平成29年12月1日（金）

午後1時30分から

場所：弥富市 十四山支所 第4会議室
（十四山支所3階）

○議 事

1.開会

事務局 (伊藤)	・ただ今から、平成29年度 第2回弥富市地域公共交通活性化協議会を開催する。
-------------	--

2. 弥富市長挨拶

事務局 (伊藤)	・はじめに、服部弥富市長よりご挨拶をいただく。
服部市長	<ul style="list-style-type: none"> ・今日から、いよいよ12月師走入りで、何かとお忙しいところ、地域公共交通活性化協議会にご参集いただき感謝する。 ・平素は私どもの交通行政のみならず、行政各般にわたり、大変なご協力をいただいていることを心からお礼を申し上げる。 ・地域公共交通、通称きんちゃんバスと言っているが、平成24年4月から本格的な運用をしてきた。5年の月日が経ち、その間、協議会において様々な意見を出していただき、少しでも市民の皆さまが利用しやすいように改善をさせていただいた。今後とも、この運行バスの効率化、あるいは利用者の拡大について努めていかなければいけないと思っているので、よろしく願います。 ・私ども行政としても、抜本的な改善も加えていく必要があると思っている。いずれ月日を改めて、そんなご提案も申しあげていきたい。内容としては、利用したい時間帯に便がないことが市民の皆さまの声としては非常に大きいので、便を増やす方策を考えていかないと利用勝手が悪いと思う。最初は、特定のルートからもう少し市民の皆さまの足として、あるいは通勤・通学の足として利用していただけるようなことを抜本的な改善を加えていかないといけない。改めてご提案を申し上げていきたいと思っているので、よろしく願います。 ・本日の議題においては、お手元に掲載されている通りである。慎重審議を賜り、ご承認をよろしく願います。
事務局 (伊藤)	・次に、本日の会議資料の確認をさせていただく。
事務局 (久野)	<p>会議資料の確認をする。</p> <p>事前にお送りした資料として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度第2回弥富市地域公共交通活性化協議会 次第 ・資料1：利用実態調査結果

	<ul style="list-style-type: none"> 資料 2：バス停乗降者数調査結果 資料 3：モニタリング調査結果（利用者アンケート） 資料 4：無料お試し乗車券配布結果 資料 5-1：東部ルートの運行見直しについて 資料 5-2：東部ルート見直し後時刻表（案） 資料 6：平成29年度地域公共交通確保維持改善事業・事業（自己）評価（案） <p>また、本日席上にお配りした資料として、</p> <ul style="list-style-type: none"> 配席表 資料 7：平成 29 補助年度 補助系統別事業評価票（蟹江線） <p>をお配りしている。不足はないか。</p>
事務局 (伊藤)	<ul style="list-style-type: none"> 議事に入る前に、蟹江警察署の人事異動により、新たに委員となられた、蟹江警察署 交通課長 川瀬俊二様をご紹介させていただく。 川瀬様、一言ご挨拶をお願いします。 蟹江警察署 交通課長 川瀬様 挨拶 それでは、今後の議事については、議長の山崎先生をお願いします。

3.議題

(1) 各種調査結果について

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ご指名いただいた公益財団法人 豊田都市交通研究所の山崎である。よろしくお申し上げ。 早いもので、気がつけばもう12月に入ってしまった、本当に時間が過ぎるのが早いなど話をしていた。 きんちゃんバスも安定期に入ってきている。しかし、市長からお話があったように、それに甘んじてそのまま何もしない状態で運行を続けていては、いつかまたなくなってしまう。常により良いものに、より市民が使いやすいものに変えていかなくてはいけない。この協議会で、皆さんで協力していいものをつくっていかねばならないと思う。 きんちゃんバスが最初に立ち上がった時は、元々は無料の福祉巡回バスだったが、有料のコミュニティバス・きんちゃんバスにした時に議論があった。福祉目的で続けていくのか、要は高齢者や車の免許を持っていないような方々の足としてだけでいいのか、あるいは、有料にするのだから通勤・通学でも使えるような地域の公共交通としていくのかという議論があった。今の状況を見てみると、ダイヤの設定としては、一部では通勤・通学を対象としたような部分もある。先ほど、市長が言われたことは非常に重要なことで、通勤・通学で使ってもらえるようなものを今後はきちんと検討していくべきである。 それでは、会議を進めさせていただく。 今日の議題は3つある。1つ目はいろんな調査の報告が事務局からある。2つ目、3つ目、「東部ルートの運行見直し」「地域公共交通確保維持改善事業の自己評価」について、皆さんにご協議いただいて審議する事項になっている。
------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の議題「(1) 各種調査結果について」事務局から説明をお願いする。
<p>事務局 (久野)</p>	<p>○資料説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1の利用実態調査結果、資料2のバス停乗降者数調査結果 (OD調査)、資料3のモニタリング調査結果 (利用者アンケート)、資料4の無料お試し乗車券配布結果について、説明させていただく。 ・まず、資料1の利用実態調査結果について、平成29年9月までの状況を説明する。 ・乗車人員の推移についてだが、全てのルートをし合わせた1日平均乗車人員は昨年度よりも増加している。 ・これは、昨年度の同時期を比較してみても増加している。 ・各ルート別には、2ページに北部ルートの状況を、3ページに南部ルートの状況を、4ページに東部ルートの状況を整理している。 ・また、5ページにルート別乗車人員のまとめがあるので、こちらをご覧ください。 ・平成28年度から平成29年度への1日平均乗車人員、1便あたり平均乗車人員ともに、南部ルートの全体および平日、東部ルートの土曜日で減少している。 ・また、6ページ、7ページには、議題 (3) の事業評価と関連する、確保維持改善事業の補助年度の10-9月期で集計した結果について説明する。 ・平成28年度から平成29年度への乗車人員は昨年度よりも5,866人 (8.1%) 増加しており、特に平日の増加が大きくなっている一方で、土曜日は南部ルートを除き減少している。 ・7ページでは、上段の表で1日平均乗車人員を、下段の表で1便あたり平均乗車人員を整理している。 ・また、特に平日の増加が大きくなっているが、東部ルートの土曜日では減少している。 ・以上が利用実態調査結果となる。 <ul style="list-style-type: none"> ・次に資料2「バス停乗降者数調査結果」をご覧ください。 ・調査は7/10 (月) ~7/15 (土) の1週間、全てのバス車内にて、シール形式の調査票を配布する形で実施している。 ・2ページに回収結果を整理しており、乗車実績に対し、全体で99.6%の回収率と、ほぼ全数を把握できている。 ・バス停乗降者数調査では、利用者の属性なども調査しており、3ページ以降にその結果を整理している。 ・利用者の半数以上は75歳以上となっており、65歳以上の高齢者は約7割となっている。 ・ルート別にみると、75歳以上の割合は北部ルート、東部ルートで高くなっており、高校生以下の利用はほとんどが南部ルートとなっている。 ・次に、4ページをご覧ください。

	<ul style="list-style-type: none"> ・利用目的については、「公共施設利用」が最も多く、「買い物」も多くなっている。 ・5ページをご覧ください。 ・バス相互の乗り継ぎ状況を整理している。 ・きんちゃんバス相互や、木曾岬町自主運行バスとの乗り継ぎが見られる。 ・次に、6ページをご覧ください。 ・バス停間移動について、移動の多いものを図示している。 ・最も移動件数が多いのは、「近鉄弥富駅南口」から「寛延」への移動で、北部ルートや南部ルートでは、「近鉄弥富駅南口」や「弥富市役所」、「総合福祉センター」「イオンタウン」を中心とした移動が多く、東部ルートでは「鮫ヶ地」「十四山総合福祉センター」間の移動が多くなっている。 ・7ページをご覧ください。 ・バス停別乗降者数を整理しており、「近鉄弥富駅南口」「イオンタウン」「弥富市役所」「海南病院」「総合福祉センター」の順での乗降者数が多くなっている。 ・以上がバス停乗降者数調査結果となる。 ・次に資料3「モニタリング調査結果」をご覧ください。 ・モニタリング調査結果は、きんちゃんバス利用者を対象に、アンケート調査を実施しており、配布数に対する回収率は約3割となっている。 ・3ページをご覧ください。 ・属性についてだが、バス停乗降者数調査結果と同様に、高齢者が多くなっており、65歳以上だと約8割を占めている。 ・4ページをご覧ください。 ・きんちゃんバスの利用状況としては、東部ルートが多くなっており、約3割の方は複数ルートを利用されている。 ・また、利用頻度は約8割の方が週に1回以上利用されている。 ・5ページをご覧ください。 ・昨年と比べた場合の利用頻度は、「変わらない」方が半数いるが、「増えた」方も半数近くいる。 ・利用目的は、「買い物」や「通院」、「公共施設への用事・利用」が多くなっている。 ・6ページをご覧ください。 ・満足度は、無回答を除くと約6割の方が「満足」と回答している。 ・網形成計画も目標では、利用者満足度の向上として、平成32年に、無回答を除いた値で50.0%以上の「満足」を確保するものとしており、これを超える値となっている。 ・不満な理由としては、「本数が少ない」という意見が多くなっている。 ・7ページをご覧ください。 ・回数券、定期券、シルバーパスの利用状況については、昨年度と比較すると「回数券」や「定期券」、「シルバーパス」で減少している。
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクル&バスライド駐輪場の利用状況については、「無回答」のほか、「利用できることを知っていたが、利用したことはない」も多くなっている。 ・8ページをご覧ください。 ・東部ルート¹の飛島公共交通バス蟹江線との乗り継ぎについては、「乗り継ぎができることを知っているが、乗り継ぎをしたことがない」が多くなっており、「乗り継ぎをしたことがある」は2.1%となっている。 ・9ページをご覧ください。 ・バス停までの距離は、「徒歩約5分以内」が最も多くなっており、「5分圏内」で見ると、約7割の方が比較的バス停に近い位置に居住している。 ・今後のきんちゃんバスの運行維持については「現状の費用負担で運行を維持すべき」が最も多く、「市の費用負担を増やしてでも運行本数などを充実すべき」も多くなっている。 ・昨年度と比較すると、「市の費用負担を増やしてでも運行本数などを充実すべき」が増加している。 ・以上がモニタリング調査結果となる。 ・最後に資料4「無料お試し乗車券配布結果」をご覧ください。 ・平成23年度以降毎年度実施している無料お試し乗車券の配布結果を整理している。 ・2ページの配布結果をご覧ください。 ・今年度の無料お試し乗車券の利用枚数は956枚となっており、昨年度よりも利用枚数が減少している。 ・配布期間中のきんちゃんバスの利用状況を見ると、昨年度と比較して北部ルートと東部ルートで利用者数が増加し、南部ルートで減少している。 ・3ページをご覧ください。 ・無料お試し乗車券利用者の年齢層は、「15～64歳（高校生除く）」や「65～74歳」、「小・中学生」が多くなっており、昨年度と比較すると「15～64歳（高校生除く）」「高校生」が増加し、「小・中学生」「65～74歳」が減少している。 ・4ページをご覧ください。 ・無料お試し乗車券配布以前のきんちゃんバス利用の有無について整理しており、無料お試し乗車券を通じた新規利用者は、72名となっており、新規利用者は昨年度よりも減少している。 ・5ページをご覧ください。 ・車の運転免許保有状況は、免許を持っていない方が多くなっている。 ・また、利用目的は「買い物・外食・旅行・遊びなどのお出かけ」が多くなっている。 ・6ページをご覧ください。 ・今後の利用意向は、「利用したいと思う」が多くなっており、初めてきんちゃんバスを利用した人（新規利用者）においても「利用したいと思う」
--	---

	<p>が多くなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以上、長くなったが、これで議題（1）各種調査結果についての説明を終わる。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ今、4つの資料を使って説明があった。 ・1つ目は、利用状況の調査結果である。利用状況に関しては、全体としては増加しているが、部分的に減少しているところもある。 ・資料2は、乗降調査を毎年やっているが、シールを使ったおもしろい調査票である。バス停の名称が書いてあるシールをどこから乗って、どこに降りたかというのを貼ってもらう調査票で1週間調査した結果である。 ・それから、利用者アンケート調査、無料お試し乗車券の配布結果である。 ・これに関して、何か意見やご質問等あれば願います。
石屋委員 (交通対策課)	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2の3ページ、南部ルートについて、高校生が多いということと、4ページの方でも通学・通勤が南部ルートについてだけ特徴的だが、なぜ他のルートは少なく、南部があるのかという分析はされているのか。 ・資料4の無料お試し乗車券だが、5ページの運転免許を持っていない方が多いということだが、逆に35%の方が運転免許を持っている方で無料乗車されているが、その方の次回の利用意向といった、利用につながるような情報は何か把握されているのか。 ・資料3の4ページ、「②きんちゃんバスの利用状況」だが、利用したことがあるかというところだと思うが、東部ルートが52%と多くなっている。その他の利用実績は、全体割合としては少なくとも10%とかになっている。ここだけ伸びているのは、調査のしかたによるものなのかどうか、何かあったら願います。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・3点、ご質問があった。事務局、願います。
事務局 (久野)	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2の3ページ、南部ルートの通勤・通学についての分析等はあるのかというお話だが、分析としてそこを引き出して、調査をかけたということはない。今後、南部ルートについて、網形成計画でも記載しているが、ルート改善等の検討をさせていただく予定になっている。その時に、南部ルートの地域の方について、アンケート等をとらせていただき、改善内容の検討のための資料としてとらせていただきたいと思いますと考えている。 ・資料4の5ページ、「クルマの運転免許の保有状況」の中の、免許を持っている方についての利用意向については、アンケート調査の中で拾い出しはしていない。拾い出せば、この方について、どういったことで使っているのかというデータは出せるので、一度見てみたいと考えている。 ・資料3の4ページ、東部ルートの回答が多い。これは、シール式とは違い、アンケートをお渡しさせてもらったものについて送っていただく形になっている。送っていただく方の人数、その地域の方の人数によって割合が変わってくる。シール式は直接そこで、皆さんほとんど回収しているので割合としてはぴったり出てくる。お渡しさせてもらうのは一緒だが、同じ方には渡さないで、その方が送ってくれるかどうかなので、今回

	は東部ルートの方が多く返していただいたので、東部ルートの方の意見が多くなっている。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・おもしろい指摘だと思う。最後のところは、利用者の割合でいくと南部ルートが一番多いはずである。東部ルートの方は結局、アンケートを返してくれるというのは、バスに関して意識が高いということである。 ・南部ルートが通勤・通学が多いというのは、印象としては、距離的に弥富駅に近い人たちは車で、例えば親が高校生や大学生を送ったりしている。南部ルートだと親が車で送っていくにしても距離があるから、バスに乗って行っているという気もするが、そのあたりいかがか。
福田委員 (民生委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・南部ルートについて、通学の方が、朝はいいけど、夜は塾などで遅くなると車で送迎が必要になる。仕事や家事などやりながらなので中断されてしまって、夜はもう少し本数を増やしてほしい。バスを利用している方が結構みえる。そういうことで増えているのではないか。距離もあるので。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・その辺は、南部ルートの南の方の人たちということか。
福田委員 (民生委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、そうである。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・そんな調査も今後やっていく。 ・他にいかがか。
杉本委員 (愛知運輸支局)	<ul style="list-style-type: none"> ・私も同じようなところが気になっていて、南部ルートは逆に高校生の利用とか通学の利用が多いということなので、どのバス停での乗降が多いのかということもデータとして把握されているかと思うので、そういったデータも集約すると、次の見直し等に非常に役に立つと思う。 ・資料3の3ページの調査結果だが、同様の結果になっているかとは思いますが、ルート別で特徴的なものがあるのであれば、補足で説明をお願いしたい。住まいのところでいくと、多岐にわたっているところもあるかもしれないが、どのルートがどの地区に入っているかが、カッコ書きで示してもらいたい。例えば、弥生小学校区のところはどこのルートが入っているというようなものがあると、私のような人にもわかりやすいのかなと思った。 ・4ページの利用頻度だが、週に5日以上の方も非常に多くなっている。逆に言えば、特定の人には利用しやすい、使いやすいということで毎日使われている。5日というのは、ほぼ毎日利用されているということになるので、こういった方を大事にしないといけない。逆に固定化されつつあると、その方が何らかの理由で利用されなくなると、一気に減ってくるので、こういったところをしっかりと捉えながら、あるいは週に1回、月に1回の方の頻度を増やすような施策を打っていただくことが必要になってくる。
事務局 (久野)	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の中には、「どのルートを利用しているか」というものを○をうつところと、本人さんが「どの学区にお住まいか」というところがあるので、それを拾ってこれば、何学区の方がどこのルートを利用し

	<p>ているというデータは出せると思う。次回のアンケートの時のデータの最終的な結果を出す時にそれを入れさせていただく。</p>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ、アンケートのサンプル数が少ないので、あまり細かくルート別に集計すると、学区を代表していない数字になってしまう。それは、断った上で、参考までに見せていただくとよい。 ・学区に関してはおっしゃる通りで、この学区を走っているバス路線は何ルートなのかわかるような絵でも何でもいいので、ここに書いてあるとよい。 ・私から一言、言っておく。資料4の無料お試し乗車券に関して、愛知県さんがやっているエコモビ表彰（地域や市民がエコな交通に取り組みに対して表彰する制度）があったので、弥富のお試し乗車券を事務局で頑張ってお誘いしていたが、残念ながら入選できなかった。選ばれたところは、行政ではなく、市民の方々が取り組んでいるようなところが表彰されたようである。いい取り組みだと思うので、弥富がこんなことをやっているというのを県全体に知らしめていく良い機会かと思う。 ・議題（1）の報告事項はここまでとさせていただきます。

3.議題

（2）東部ルートの運行見直しについて

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・議題（2）東部ルートの運行見直しについて、事務局より資料の説明をお願いします。
事務局 （久野）	<p>○資料説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、A4判の資料5-1を基に、東部ルートの見直しスケジュールとルートについて、説明させていただく。 ・スケジュールについてだが、今回第2回の協議会において、東部ルートのルート、ダイヤの見直し案について承認が得られれば、表とはずれるが、広報等の関係で、2月上旬から1か月間のパブリックコメントを実施し、その結果を踏まえた上での最終案を3月末頃に開催します第3回協議会においてお示しさせていただく。 ・そこで承認を得られたら、関係機関との調整や申請等の手続きを進め、来年の10月1日にダイヤ改正を実施したいと考えている。 ・また、その2か月前の8月頃から広報やHPにおけるダイヤ改正の周知、9月に新時刻表の全世帯配布を実施したいと考えている。 ・次に2ページをご覧いただきたい。 ・運行ルートの見直しについては、これまでの協議会でもお示しさせていただいている通り、現行の右回り左回りの巡回運行を、上り下りのピストン運行に変え、運行便数を増やそうとするものである。 ・2ページの下部に現在のルート図を、3ページ目の上部に見直し後ルートをお示しさせていただいている。 ・北から「ピアゴ十四山店」バス停については、東部ルートのみ廃止し、北部ルートのみが停車するように変更を。 ・「J A支援センター」「坂中地」「五斗山」の3箇所のバス停は廃止。

- ・「すずきこどもクリニック」バス停は、クリニック利用者への配慮が必要であるため、現行位置としている。
- ・また、赤色の破線で示している道路は、幅員が狭く、バス停を設置した場合の安全性の確保が難しいことから、「すずきこどもクリニック」から北上し、セブンイレブンのある交差点を左に曲がり、「村瀬医院」バス停まで迂回するようなルート設定になる。
- ・次に4ページをご覧ください。
- ・ダイヤ変更案についてだが、基本的な方針として、利用の多い「十四山総合福祉センター」「海南病院」バス停の利用実態や、両施設の開業時間に合わせたダイヤを編成し、東部ルート利用者の約8割を占める高齢者が利用しやすい環境を形成することで、利用促進を図ることとしている。
- ・主なポイントとしては、朝の海南病院や十四山総合福祉センターへのアクセスを、佐古木駅から海南病院・近鉄弥富駅方面に行く上り便で対応すること。
- ・また、夕方の十四山総合福祉センターからの佐古木駅方面への帰りを、下り便で対応することとしている。
- ・実際のダイヤ変更案は、A3の資料5-2をご覧ください。
- ・表紙をめくっていただき、見開きで見ていただくと、左側に現行のダイヤが、右側に変更後のダイヤが見れるようにしている。
- ・1ページ目、2ページ目は平日ダイヤとなっている。
- ・海南病院に着目してみると、現行ダイヤでは、始発便となる東部1便は「佐古木駅」を8：12に出発し、十四山地区を周って、海南病院には8：55に到着する。
- ・一方の見直し後では、海南病院への到着が7：59と、受付開始直前の時刻となる。
- ・また、十四山総合福祉センターに着目してみると、現行ダイヤでは、十四山地区住民が十四山総合福祉センターの温浴施設を朝から利用してみようと思うと、東部2便の10：26着を利用することになる。
- ・一方の見直し後では、十四山総合福祉センターへの到着が東部3便の10：22となる。
- ・また、十四山総合福祉センターからの帰りについては、現行ダイヤでは東部3便の12：54か16：59発のいずれかしかなかったものが、見直し後には、12：45か15：31か17：06を選べるようになる。
- ・次に3ページ目、4ページ目をご覧ください。
- ・土曜日ダイヤについては、過去に利用者の少ない朝早い便を削減した経緯も踏まえつつ、十四山総合福祉センターの開館時間も踏まえ、できる限り便数増となるダイヤへの見直しとなっている。
- ・また、平日、土曜日ともにできる限り乗り継ぎにも配慮しているが、便によっては改善するものや悪化するものもあるという状況になっている。
- ・それと、資料5-1の5ページ目以降には、参考として利用実態調査とバス

	<p>乗降者数調査による、バス停の利用状況をグラフで整理している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なお、グラフ中に数値の無いバス停は利用者数が0人となっており、0.0人と記載のある場合は、少なからず利用者がいるバス停となっている。 ・今回廃止するバス停においては、便によっては多少利用者が見られる状況となっている。 ・以上で議題（2）東部ルートの実行見直しについての説明を終わる。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで、この協議会で何回か検討を進めてきた東部ルートの実行見直しに関して、具体的な案が挙がってきた。説明いただいたようにルート、バス停の位置、見直し後の時刻表の案が出てきた。複雑なところもあるが、ご意見、ご質問等あれば願います。
竹川委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・東部ルートの見直し、大変利用者を考えた考え方でのルートのしかた、非常に良いかと思う。これで、南部・北部ルートも見直しをかけていただいて、市民の使いやすいきんちゃんバスにしていだければと思う。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・お褒めの言葉をいただいた。事務局でよく検討していただいている。公共施設とか、利用の開館・閉館時間も見ながら設定していただいている。 ・ダイヤの設定は、事業者が専門だが、丸投げしているといいものがない。今回は、事務局の担当者がきっちり考えていただいている。 ・他にいかがか。
杉本委員 (愛知運輸支局)	<ul style="list-style-type: none"> ・この見直し案、先ほど竹川委員が言われたように非常によく考えられたものだなと、改めて事務局と事業者さんのご苦労に敬意を表したいと思う。 ・東部では、今まで通学・通勤というのは難しいところがあった。十四山地区の方から近鉄の弥富に8時に着くということになれば、通学・通勤をしていただけるような方も多少なりとも出てくるかと期待を寄せながら見ていた。帰りは、なかなか通勤で使うのは難しいとは思いますが、行きだけでも使っていただくことで、より利用者の利便性が高まっていいことになるかと思う。 ・私どもからお話をさせていただくのは、ダイヤについては利便性とか効率で見直ししていただいている。おそらく、事業者さんのご意見も伺いながら見直ししていただいたと思うが、ともすれば利便性を高めることによって、安全性が損なわれることも出てくる可能性もある。最終的にきんちゃんバスをやっていただくのは、実施主体である弥富市さんになるので、弥富市さんが主体となって安全面、労働時間…例えば、連続4時間運転には30分休憩とか法令規定もあるので、そういったところも配慮していただきながら負担にならないようお願いしたい。 ・東部ルートについては、一番の肝は、飛島の蟹江線の乗り継ぎである。不便なところもあるが、かなり待ち時間も短縮でき、乗り継ぎの利便性を高めていただいていると思っている。ぜひ、こういったものを上手く活用して全体のネットワークにつなげていただければと思っている。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・今、ご指摘があったところ、事業者さんとしては、やはり運転手の就業管理が大事なところになってくる。三重交通さんは何かそのあたりは、

	十分検討されているとは思いますが、特によろしいか。何かあればお願いする。
小黒委員 (三重交通)	<ul style="list-style-type: none"> • いただいている運転士のダイヤ案を手元で見ているが、運行時間は、前回の循環だと1方向は1時間半とか1時間40分。これが上り、下りに来ていただくことで、1時間ちょっとに短縮される。あとは、道路の遅れによって折り返す時間と休憩時間の問題。先ほど出てきた4時間連続運転という部分については、もう少し弥富市さんとお話させていただければクリアできるとかと思う。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> • 細かいところで、修正するところは出てくる可能性はあるということによろしいかと思う。 • 他によろしいか。 • 資料5-1の1ページ目にあるように、今後はパブリックコメントを年明けにやる。ここで、何か意見が出てくる可能性はあると思う。それを踏まえて、この案で修正すべきところがあったら直していく。 • パブコメの結果、あるいは地域から何か声が上がってきた時に、多少変えていかなければならない部分はあるかと思う。また、事業者さんがもう少し細かく見た時に、少し調整すべきようなところも出てくるかもしれない。私もチェックさせていただくが、そういったことも事務局一任ということによろしければ、ここで承認いただきたいと思う。 • それではご審議いただきたい。この案を、今お話したように今後、細かい修正は事務局一任ということ承認いただける方は挙手をお願いする。
委員一同	(異議なし)《承認》
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> • ご承認いただいた。事務局で作業を進めていただきたい。よろしく願います。

3.議題

(3) 平成 29 年度地域公共交通確保維持改善事業・事業（自己）評価について

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> • 議題（3）平成29年度地域公共交通確保維持改善事業・事業（自己）評価について、事務局より説明をお願いします。
事務局 (久野)	<ul style="list-style-type: none"> • 平成29年度地域公共交通確保維持改善事業・事業（自己）評価について資料6、資料7を基にご説明する。 • まず、資料6について説明する。 • 平成28年10月から平成29年9月までの平成29年度、弥富市においては、「地域公共交通確保維持改善事業」のうち、「地域内フィーダー系統確保維持事業」による補助を受けており、事業・自己評価として、指定の様式に基づいて整理したものとなっている。この事業・自己評価は、来年1月中旬までに愛知運輸支局へ提出することとなっている。 • 1ページ目は事業の評価についてである。 • 記載項目としては、左から①補助対象事業者、②事業概要、③前回の事業評価結果の反映状況、④事業実施の適切性、⑤目標・効果達成状況、⑥事業の今後の改善点となっている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・①補助対象事業者は、三重交通（株）となっている。 ・②事業概要は、弥富市内を巡回する3路線（北部ルート、東部ルート、南部ルート）を運行し、各ルートとも近鉄弥富駅やイオンタウン、総合福祉センター等の主要な施設にアクセス。また、東部ルートは飛島公共交通バス蟹江線と一部バス停を共有。と整理している。 ・③前回の事業評価結果の反映状況は、海南病院改築・蟹江警察署移転等に伴うダイヤ改正を実施したこと、ニーズに即した運行改善の検討として、十四山地区住民アンケートを実施したこと、無料お試し乗車券を配布し、72名の新規利用者の掘り起しができたこと、また、情報提供等周知活動の実施内容などを記載している。 ・④事業実施の適切性は、計画通り、モニタリング調査（利用者アンケート）を実施し、できる限り利用実態やニーズの把握に努めていること。また、協議会を計4回開催するとともに、広報誌や市HP、イベントの場等を活用した情報提供に努めており、適切に実施していることを踏まえA評価としている。 ・評価基準については、A評価は事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された・されているということになっている。 ・「⑤目標・効果達成状況」については、「満足度の向上」と「1便あたり乗車人員の増加」という2つの目標を掲げていた。 ・「満足度の向上」については、モニタリング調査の結果から、「非常に良い」「やや良い」の回答が60.0%と、前年度の51.2%よりも増加しておりA評価としている。 ・また、「1便あたり乗車人員の増加」については、前年度から各ルートともに増加しているためA評価とし、全体の評価としてもA評価とする。 ・「⑥事業の今後の改善点」については、東部ルートの運行改善を実施予定であること、継続的な利用促進活動の推進が必要であることとしている。 ・続いて2ページ目、地域公共交通の目指す姿としては、網形成計画で示した基本方針「市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持」について記載している。 ・3ページ目以降は中部様式1として、自己評価の概要を整理したものとなっている。こちらは、先ほどの1ページ目の内容を補足するような形で、少し詳細に整理したものとなっている。 ・4ページ目には、「1. 協議会が目指す地域公共交通の姿」ということで、地域の特性や総合計画・都市マスでの位置づけの内容、網形成計画での内容について整理している。 ・次に5ページ目である。 ・「2. 計画の達成状況の評価に関する事項」では、網形成計画における2つの数値目標、「目標1：1便あたり平均乗車人員の維持・増加」「目標2：利用者満足度の向上」について記載してある。 ・次に6ページ目である。 ・「3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容」では、上段
--	--

	<p>の枠内で主な取り組み内容について記載している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・枠の下部には、計画に基づく各種調査結果の概要を整理している。 ・次に7ページ目である。 ・「4. 具体的取り組みに対する評価」では、事業実施の適切性、目標・効果達成状況の評価の2つの視点で記載している。 ・事業実施の適切性については、計画通り各種事業を推進しており、適切に実施しているものとしている。 ・次の目標・効果達成状況の評価では、「生活交通確保維持改善計画」の目標に対しては、満足度の向上は達成し、1便当たり乗車人員数の増加については全ルートで目標を達成している。 ・網形成計画の目標に対しては、このままの維持・増加傾向を維持できれば目標を達成できるものとしている。 ・次に8ページ目である。 ・「5. 自己評価から得られた課題と対応方針」については、2点ある。 ・まず、「東部ルートの運行改善実施」についてだが、利用者の要望や住民の意向、十四山総合福祉センターや弥富市役所等中心部への利用が多いなどの利用特性を踏まえ、運行便数を増加させるために運行ルートを改善することなどを記載している。 ・次の「継続的な利用促進活動の推進」では、一部利用促進策の認知度が低いため、市HPや広報等多様な媒体を活用した継続的な周知など利用促進活動を推進することが必要であることを記載している。 ・次に、9ページ目以降は、中部様式2となっている。 ・まず「1. 直近の第三者評価の活用・対応状況」についてである。 ・昨年度は評価対象外だったので、平成27年度の第三者評価委員会における事業評価結果を一番左に2つ記載しており、それに対応するように、反映状況、今後の対応方針について記載している。 ・1つめの第三者評価委員会における事業評価結果として「平成25年10月のダイヤ改正後にアンケート調査を兼ねた「バス停乗降者数調査」及び「無料お試し乗車券の配布」などに取り組み、減便に伴う影響や乗り継ぎ状況の把握、新規利用者の開拓に努められていることについて、評価する。」という評価を頂いている。 ・これに対し、今年度も利用実態調査やバス停乗降者数調査（OD）、モニタリング調査（利用者アンケート調査）等の各種調査を実施。無料お試し乗車券の配布は、今年度で第7回を迎えており、一定の新規利用者の開拓に貢献。イベント等の場を活用した周知活動として、子どもをターゲットにした取り組みを実施したことを記載している。また、今後の対応方針として、弥富市地域公共交通網形成計画に即し、事業や調査を今後も継続的に実施することとしている。 ・2つめの第三者評価委員会における事業評価結果として「現在、各課題に対応すべく「地域公共交通網形成計画」を策定しているとのことなので、計画の中の評価の仕組みを検討するとともに、計画策定後は、地域の観
--	---

	<p>光資源の発掘や、更なる交通サービスの充実及び利用促進が図られることを期待する。」という評価を頂いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これに対し、「弥富市地域公共交通網形成計画」にも位置づけている東部ルート¹の運行改善について、十四山地区住民を対象とした運行改善に関するアンケート調査を実施し、現在検討中であり、今後、協議会における議論だけでなく、パブリックコメントも実施し、広く住民意見を募った上で実施する予定であることを記載している。 ・次に11ページ目である。 ・「2. アピールポイント」については、イベントを活用した周知活動として、市内で開催された健康フェスタや、やとみ春まつりにおいて、子どもをターゲットにしたバス乗車体験や制服試着体験、運転席での記念撮影会、啓発品の配布を実施するとともに、きんちゃんバス等の情報をまとめたポスター展示等を実施したことについて記載している。 ・次に、資料7「平成29補助年度 補助系統別事業評価票（蟹江線）」について説明する。 ・これは幹線系統である飛島公共交通バス蟹江線の事業評価となっており、12月14日に開催される飛島村地域公共交通会議での審議も経まして、運輸支局に提出されることになる。 ・蟹江線の評価としては、「2.H29年度の運行状況」において「計画どおり運行されたか」「目標・効果達成状況」とともにA評価、うら面の「3.H29年度の取り組み状況」においてもA評価とされている。 ・また、今後の課題として運営主体では「降雨時の朝夕通勤・通学時間帯における乗降客のピーク時に、満車に近い状況となっており、将来、積み残しが発生する懸念がある。現段階では積み残しは発生していない。車両の更新時期にあわせ、増便対応について注視を続ける。」とされており、平成32年度には飛島村でも次期交通網計画を策定し、その中で増車について検討するものとしている。 ・なお、この評価票には、蟹江線が運行する各市町村の所見等を記入する箇所があり、弥富市についても記載されている。 ・弥富市については、基本的に先ほど議題（2）でご説明させていただいた事業（自己）評価での内容と同じような内容が記載されているので、説明は割愛させていただく。 ・以上で議題（3）平成29年度地域公共交通確保維持改善事業・事業（自己）評価についての説明を終わる。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ今説明があったように確保維持改善事業のまとめ、そして自己評価の結果を報告いただいた。資料6、7に関して、ご意見、ご質問等あればお願いします。
石屋委員 (交通対策課)	<ul style="list-style-type: none"> ・資料7について、若干の補足をさせていただく。 ・資料7は、地域間幹線系統である飛島公共交通バス蟹江線の評価ということでご説明いただいたところである。地域間幹線系統については、愛知

	<p>県のバス対策協議会で資料6の評価を、そちらの方でまとめて国に提出する手筈になっている。ただ、県の方の市町村さんが集まっていた会議だけで決めるわけにはいかないの、各市町村さんにご意見をいただき、実態を記入いただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> • その中でも地域間幹線系統も地元で走っているものなので、沿線の市町村さんのご意見、住民のご利用者の皆さまのお声もできるだけ公共交通会議等で拾いあげてご記入いただくことが望ましいので、そのようにご案内させていただいている。それを受けて、この場でも出していただいていることだと思うので、何かお気づきの点があれば、これも含めてご協議いただきたい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> • 愛知県さんから補足があったとおり、飛島バスは幹線バスである。地域間幹線という言い方をしているが、要は、複数の市町村をまたいで走るバスというのは、地域間を結ぶ幹線だという位置づけがされていて、国から補助金がもらえる。 • 弥富のきんちゃんバスは、飛島バスが弥富市を通過して、亀ヶ地と善太橋西のバス停で弥富のきんちゃんバスが接続している（乗り換えができる）。幹線につながる支線（フィーダー路線）ということで、この関係できんちゃんバスも補助金をもらっている。 • 補助金をもらうからには、きちんと「これだけやりました」「頑張って皆さんが使いやすいようなバスにしました」「利用促進の対策をしました」といようなことをやって、その結果を説明して、自分で評価したということ報告しなければいけないというのが議題になる。 • 何か、ご意見、ご質問等あればお願いします。
杉本委員 (愛知運輸支局)	<ul style="list-style-type: none"> • 資料6の補足をさせていただく。 • きんちゃんバスについては、フィーダー系統の補助（国の補助）を受けていただいている。受けているからには、評価をして、国に報告をしなければいけない。資料6の別添1、1-2というのは、国に提出される資料である。 • 中部様式というのは、中部運輸局独自の評価指標でもって、補助路線だけではなく、全体路線を含めて評価をしないとよくなるだろうということで、中部運輸局管内の市町さんにはご苦勞をおかけしているが、私ども独自で作成している。中部様式については、今年度については、11月9日に改めて作成の連絡をさせていただいている。まだ1ヶ月も経たないということで、非常に遅れて申し訳ない。 • さらに、中部様式については、昨年度はワード形式の縦版でやっていたところが、使い勝手が悪いという意見もあったので、急遽、パワーポイント形式の横版で様式を作り直した。項目ごとの書き方については、変わりはない。 • 先ほど、石屋委員からも話があったように、全体の公共交通の評価をしていただくことになるので、活性化協議会の中部様式の中にも、ぜひ幹線の部分も少し何か入れていただくとありがたい。そこを含めて、全体

	<p>のネットワークはこうであるということを入れていただくと非常に助かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・網計画にタクシーの関係がどう位置づけられるか確認してこなかったが、タクシーも重要な地域公共交通になるので、それも含めた評価をしていただくような形にすると、その中で「幹線、補助系統はこうである」と二段構えで評価をしていただくと、全体の評価と補助路線の評価の2つの形でできるようになる。中部様式に関しては、そういったところをご注意いただくと、よりいいものになる。全体としては非常によくまとめていると思う。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・今、いただいたコメントに対して、事務局いかがか。
事務局 (久野)	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を精査させていただいて、修正を加えられるようなところがあればしていく。できれば一任していただけるとありがたい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・幹線との関係を意識していく。確保維持改善事業の計画の中で、タクシーは位置づけているので、そこは少し欠けている。タクシーに関する部分が入っていない。今日はタクシー協会さんが欠席されているようだが…。そこを直していただいた方がよい。 ・「全体のネットワークをきちんと意識する」というところを運輸局さんが強調してみえて、先月あったシンポジウムの中でもその辺を強調してみえた。 ・ネットワーク図として4ページに図があるが、公共交通網形成計画のイメージ図の横に並べて、かなり小さくて見にくい図ではあるが鉄道も含めて弥富の地域公共交通網として入れている。ここにあるような公共交通に関して、すべて意識しながらきんちゃんバスを考えていかなければならない。 ・他にいかがか。
竹川委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局が作ってくれた資料1～7までであるが、説明の中で「資料1の1ページ、2ページ…」というふうなので、資料に目を通すのに時間がかかる。いっそのこと、1ページ目から「1、2、3、4…11…20」とした方が、我々聞く方にしてみるとわかりやすい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・他の会議はどうか。どんな資料のつくり方をしているのか。 ・いろんな形があると思う。一冊の資料を作るところもあるし、このように分冊してあるところもある。
事務局 (久野)	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はクリップで留めてはあるが、中身が似たような結果を出しているのがあるので、一緒にすると混乱しそうである。できれば別々にさせていただきたい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・おそらく、議題1で4つの資料を使って、全部を一気に説明したので、私の進捗がまずかったと思う。説明は一気にやってもらって、ひとつずつ、質問いただいた方がよかったかと思う。そのあたり、進捗も気をつけていきたい。分かれていた方が、途中で資料の差し替えがあるという時に全部まとめて綴じると、印刷するタイミングも考えるとやりにくさはあるかと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> 先ほどの確保維持改善事業・事業評価に関しては、説明があったようにこういった形で自己評価をした。この結果を運輸支局に提出していくことになる。協議会として、この自己評価の内容がこれでよろしいかどうかをご審議いただきたい。 先ほど、運輸支局さんからご指摘があったように、いくつか修正すべきところはあるかと思うが、細かな修正は事務局一任ということで承認いただければと思う。それではご審議いただきたい。承認いただける方は挙手をお願いする。
委員一同	(異議なし)《承認》
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ご承認いただいた。事務局で仕上げていただきたいと思う。 市民代表の組織の方々と、発言されていない方から一言ずつ、何か意見をいただければと思う。 区長会の岡村さんからお願いする。
岡村委員 (区長会長)	<ul style="list-style-type: none"> 私は南部の方に住んでいる。朝・夕の子どもたち、中学生・高校生が使えるような時間帯に集中して便を出していただくと、もっと南部の利用が増えていいと思う。検討をお願いしたい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> まさに、冒頭にお話したようなところである。今後の検討になるかと思う。 福寿会の三矢会長、お願いする。
三矢委員 (福寿会連合会)	<ul style="list-style-type: none"> おそらく、このバスに一番厄介になっているのは、私どもの仲間ではないかと思う。僕自身は、カードはいただいているが乗ったことがない。今日の午前中にでもと思ったが、時間がなかった。 結果的にこのバスは、採算が合うわけではないと基本的には思う。いわゆる、年寄り向きというのか、時間によっては通勤・通学もあるだろうけれども。要するに福祉を考えたバスで、なるべく皆さん方の満足度が多いということを伺って喜んでいる。もう少し不満な点を改善できるのであればもっといいかと思う。具体的にはわからないが…。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ぜひ、福寿会の中で1回乗ってみようという企画をしていただければいいかと思う。 福田さんをご発言いただいているので、次は、女性の会の伊藤さん、お願いする。
伊藤委員 (女性の会)	<ul style="list-style-type: none"> 今回、東部ルートのをよく見させていただいて、本数も増えているし、大変良いかと思う。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> 公募委員の佐野さん、お願いする。
佐野委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> 以前の会議で、バス停のことを申し上げた。東部ルートの馬ヶ地地区だが、バス停の変更で、宝泉寺さんのあたりをお願いできたらと申し上げた。バス停の移動はどうか。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> 事務局、いかがか。
事務局 (久野)	<ul style="list-style-type: none"> 現地を見させていただいたが、北に移動させると、道路の余白が狭い状態だった。逆にバス停をおくと、車に支障が出る。言われたとおり、こちらはトラックの出入りはあるが、場所としてはスペースがある。向こ

	うは逆にスペースがなくなるので、実際苦しいと思う。
佐野委員 (公募委員)	・奥の方にもととの人が多い。
事務局 (久野)	・逆に近い方もみえるので、地元の総意として出していただければ検討しやすいのでお願いします。
佐野委員 (公募委員)	・馬ヶ地の中心地がどこかというのを…。
事務局 (久野)	・今、近くて、動かしてほしくないという人もいる。
佐野委員 (公募委員)	・中心地に近いところにしていただくとありがたいと思う。
事務局 (久野)	・部落の中の総意として出していただけると検討しやすいのでお願いします。
山崎議長	・地域の方々に案を出していただくと変更しやすいと思う。

3.議題

(4) その他

山崎議長	・議題(4) その他について、事務局から何かあるか。
事務局 (伊藤)	・特にない。
山崎議長	・議題はこれですべてである。 ・事務局にマイクを返す。
事務局 (伊藤)	・次回の協議会は3月末を予定している。大変お忙しい時期ではあるが、日程が決まり次第、ご案内をさせていただくので、よろしく願います。 ・以上をもって、平成29年度第2回弥富市地域公共交通活性化協議会を終わらせていただく。今後ともご協力いただくようお願い申し上げます。
	以上